学　会　記　事

第4回新潟ゲノム医学研究会

日　時　平成16年6月26日（土）
午後1時30分～
会　場　新潟大学統合脳機能研究センター
6階

I．一　般　演　題

1　半月体形成性腎炎モデルに対するviral IL-4/IL-10遺伝子治療

藤中　秀彦*, **・Adel G.A. El-Shemi**
山本　　格**
独立行政法人国立病院機構新潟病院小児科*
新潟大学医学部腎研究施設構造病理学分野**

【目的】腎不全が急速に進行するラット腎炎モデルに，アデノウイルスベクターを用いたIL-4およびIL-10の遺伝子導入を行ない，その治療効果を検討した．

【方法】IL-4またはIL-10 cDNAを組み込んだアデノウイルスベクター（Add1324）を，腎炎惹起と同時にラットに静注（治療群）し，非治療群と比較した．

【成績】肝臓において，viral IL-4，viral IL-10のmRNA発現がウイルスベクターの投与量に依存して増加すること，また経時的には投与後7日にピークになることが確認された．血清IL-4，IL-10はELISA法で，各々治療群において高レベルに検出された．治療群ではタンパク尿および半月体形成率が有意に抑制された．またviral IL-4，viral IL-10同時投与では治療に相乗効果が見られた．

【結論】Th2型抗炎症性サイトカインであるIL-4およびIL-10の遺伝子導入は，半月体形成性腎炎モデルの治療に有効と考えられた．

2　日本人家系における唇裂・唇顎口蓋裂発症に関する候補遺伝子（F13A1, D16S539, BCL3）の解析

大久保博基・藤田　　一・永田　昌毅
小野　和宏・高木　律男
新潟大学大学院医歯学総合研究科
顎顔面口腔外科学分野

【緒言】日本人唇裂・唇顎口蓋裂（CL/P）発症とF13A1（6p25.3-p24.3），BCL3（19q13.2），D16S539（16q24）の関連について伝達不平衡解析（TDT）と相関分析による検討を行った．

【対象および方法】家系内に同種疾患を認めないCL/P孤発例60家系とし，合併奇形を有する症例は除外した．末梢血からゲノムDNAを抽出後，マイクロサテライトマーカーによるPCR増幅，8％PAGE電気泳動にてアリルを検出，遺伝子型を判定した．なお，日本人健常者におけるこれらのマーカーのアリル頻度は既報告のものを用いた．

【結果ならびに考察】TDTではF13A1，BCL3，D16S539においてそれぞれ$p = 0.995$（$\chi 2 = 0.067$），$p = 0.679$（$\chi 2 = 1.152$），$p = 0.148$（$\chi 2 = 9.495$）であり，連鎖不平衡は認められなかった．一方，相関分析ではそれぞれ$p = 0.062$，0.061，0.089であり，統計学的有意差には至らなかったが，有意確率に近い値を示したことから，今後家系数を増やすとともに裂型別に詳細な分析をすすめる予定である．